

京都教区司祭・司牧者各位

京都教区における「信徒カテキスタ」養成方針（その2）

✦パウロ大塚喜直

1. これまでの経緯

2025年11月の司祭・司牧者集会において、今後の京都教区における「信徒カテキスタ」養成方針（その1）について、次のことをお知らせしました。

- ① 2024年より「信徒カテキスタ」に3年任期制を導入し3年ごとに奉仕期間の更新を行うこと。
- ② 2025年4月から「求道者に同伴する信徒」にも同様の制度を適用していること。
- ③ 今後は、両者の奉仕職を「信徒カテキスタ」に一本化し、養成していく方向であること。
- ④ 「求道者に同伴する信徒」の任期更新時期である2028年3月までに、希望者が「信徒カテキスタ」へ移行できるよう、必要な養成の取り組みを進めること。

2. アンケート結果から見えた課題

- * 福音宣教企画室では、2026年4月25日に行われた「信徒カテキスタ」「求道者に同伴する信徒」フォローアップにおいて、参加者17名を対象にアンケートを実施しました。
- * このアンケートは、各小教区・現場における求道者への同伴、洗礼準備、信仰を分かち合う奉仕の現状と課題、また今後必要とされる支えを把握するために行われたものです。
- * その結果、京都教区においては、多くの小教区で信徒が求道者や洗礼希望者への対応に関わっており、信徒カテキスタ養成の土台がすでに存在していることが確認されました。一方で、小教区共同体全体として求道者を受け入れ、支える力には、なお課題があることも明らかになりました。
- * したがって、現場が求めているのは、単に「教理を教える人」の養成ではありません。求道者を迎え、話を聴き、信仰を分かち合い、洗礼準備を支え、受洗後も共同体につないでいくための体制づくりです。
- * 特に重要な課題は、次の四点です。
 - ① 信徒カテキスタの役割を教区全体で明確にし、各教会で共通理解を深めること。
 - ② 司祭と信徒が協力して同伴できるチームをつくること。
 - ③ 小教区共同体全体で、求道者を受け入れる力を育てること。
 - ④ 受洗後のフォローアップを重視すること。

3. 今後の進め方

- * 今後は、すぐに大規模な正式講座を始めるのではなく、まず教区として基本方針を示し、司祭・既存奉仕者・小教区代表による情報交換を行います。そのうえで、少人数による試行講座から始めます。
- * 信徒カテキスタ養成を、単なる「個人資格」の制度としではなく、求道者への同伴と小教区共同体全体の信仰養成を支える教区的取り組みとして、段階的に進めていきます。
- * まず、現任の「求道者に同伴する信徒」のうち希望者を対象として、2028年3月までに、6回程度の信徒カテキスタ養成を実施いたします。
- * 内容・日程・方法等の詳細については、6月中にあらためてお知らせいたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上